



京都府木津川市

「生産者の気持ちに寄り添いながら地域の農業を支えていきたい」京野菜を全国へ出荷

かぶしがいいしやきょうとやましるのさと

株式会社京都山城の郷

WEB サイト：[https:// marujuseika.co.jp/](https://marujuseika.co.jp/)

参入法人の概要

法人形態：農地所有適格法人
代表者名：代表取締役 西井 寿享
所在地：京都府木津川市山城町上狛日詰 20
設立年次：平成 25 年 9 月
資本金：650 万円
親会社：丸寿青果（株）

営農形態：土地利用型、露地栽培及び施設栽培
主要作物：九条ねぎ、こまつな、きくな、にんじん、
ごぼう、かぼちゃ、かぶら、まくわ瓜、たまねぎ、
ほうれんそう、だいこん、みずな
経営面積：320a（うち所有 100a、借入 220a）
主な販売先：丸寿青果（株）（親会社）
売 上 額：6,000 万円
従 業 員：常勤 5 人、非常勤 10 人 計 15 人

●農業に参入した目的を教えてください

親会社の丸寿青果（株）は、昭和 33 年の創業当初より 60 年以上、京都府木津川市を中心に青果物卸業として生産者と消費者を繋ぐ役割を担ってきました。

日本の農業を支えながら、新鮮な野菜・果物の流通を通して食文化を守り、消費者に笑顔を届けることを企業目標にしています。

年々、高齢化・離農等により近隣の生産者からの入荷量が減少してきたことや、耕作者不足により遊休農地が増加してきたことから、「安心・安全でおいしい野菜を消費者に届け、生産者の気持ちに寄り添いながら地域の農業を支えていきたい」との思いから平成 25 年に「株式会社京都山城の郷」を立ち上げました。

●当該土地を選んだ理由を教えてください

親会社の丸寿青果（株）は、地元の生産者との連携により、山城地域に根付く伝統野菜、果実、朝掘り筍をはじめ、奈良県、和歌山県及び三重県などの生産者から委託された近郷野菜を、関西地方を中心にスーパー、小売店へと供給しています。

当社は、関西の食文化を支えるため、九条ねぎなどの京野菜にこだわり地元である木津川市内の遊休農地を活用することにより、地元の農業の活性化に貢献したいと考えています。

これまでの遊休農地の活用にあたっては、親会社の丸寿青果（株）が地元密着型の地方市場であるため、地元農家とも日頃から関わる事が多く、取引先の農家の高齢化に伴って、遊休農地を耕作する依頼を受けて活用に至り、今後も農地を受け入れることができればと考えています。

●当該作物を選んだ理由を教えてください

九条ねぎを選んだ理由は、千三百年の歴史を持ち、農家で種を代々受け継がれ守られてきたその歴史から、京野菜の代表として関西の食文化に深く浸透しており、関西圏で需要が多くある上に、周年栽培が可能だからです。

また、その他の京野菜として、みずな、だいこん、かぶら、ごぼう、にんじん、かぼちゃ、まくわ瓜等は京都の食の行事などと密接な関係があり、少量でも需要があるため生産しています。

こまつなやほうれんそう、たまねぎ、西洋人参は、親会社（地元市場）からの依頼で、入荷の端

境期など品薄になる時期に販売できるよう調整しています。消費者からは新鮮な朝取り野菜として重宝されています。

●参入にあたって栽培技術面等の課題にどのように対応されましたか

設立当初は農業経験のある者がおらず、手探り状態でしたが、近隣農家から営農指導を受け、防除や土づくりなど徐々に栽培ノウハウを蓄積してきました。

また、営農経験者（農協OB）など、地元の多彩な人材を集め農業従事者として雇用し、強力な戦力としました。



九条ネギの様子

●販売先や販路について教えてください。

野菜・果物の卸売販売をしている親会社に青果物を販売しています。

親会社を通じて、大手スーパーその他に流通しているため販路の確保は保証されています。

●農業参入してみて気づいた（参入するまで気づかなかった）のはどのようなことですか

当初は生産の最盛期や端境期の見通しも甘く、売れ残ったり、足りなかったりと、黒字転換するまで大変でした。

年間を通じ収穫・販売する栽培計画を持つことが重要だと気づきました。

限られた労働力の中で作業を行うことになるので、これまでの栽培計画を見直し、閑散期や繁忙期に偏らない、年間を通して平準化できる栽培計画を立てることで、生産効率を高めることができました。

●地域の方や農業委員会、JA、自治体との関係について気を付けていることがあれば教えてください

地元農業者などに教えを請い、地域に感謝し、地元貢献（遊休農地の解消や雇用の創出）することが大切です。

農作物の販売先は地元の消費者も多く、安心安全な新鮮野菜を届けることを意識しています。

●今後の経営方針について教えてください

これまでも性別や地元の人材のみに関わらず意欲ある農業従事者を雇用し、地元で定着してきました。今後も農業従事者の多彩な人材を集め、地元の活性化に貢献していきます。

資材費や経費の高騰が経営を圧迫していますが、農業機械の導入などにより生産効率を上げて、従業員の給料を上げたいと考えています。

●今後、農業参入しようと考えている企業へのメッセージをお願いします

販売先と雇用の確保が大切です。意欲ある社員を確保し、継続的に雇用していくためには、労働力に応じた給与水準の維持もしくは向上が必要となります。

また、施設導入には初期費用も高額になり、資金の調達やその後の運営見通しも最重要課題となります。

●国に対する要望があればお願いします

農機類の導入などで活用できる補助金制度があれば参考にしたいと考えています。



生産者と消費者の架け橋、丸寿青果(株)



株式会社京都山城の郷社長と営農部長